

(3) 屋嘉田潟原

1) 第1回調査(平成27年5月28日実施)

(a) 降雨状況

調査日前20日間の降雨状況を図4.4-13に示した。また、調査当日の毎時雨量を図4.4-14に示した。調査日には74.0mmの雨が記録されたが、ピークは15時ごろであり、調査時間帯はそれより前の10時~12時ごろであった。本調査は前日の降雨と合わせて考え、平常時の陸域調査として実施した。

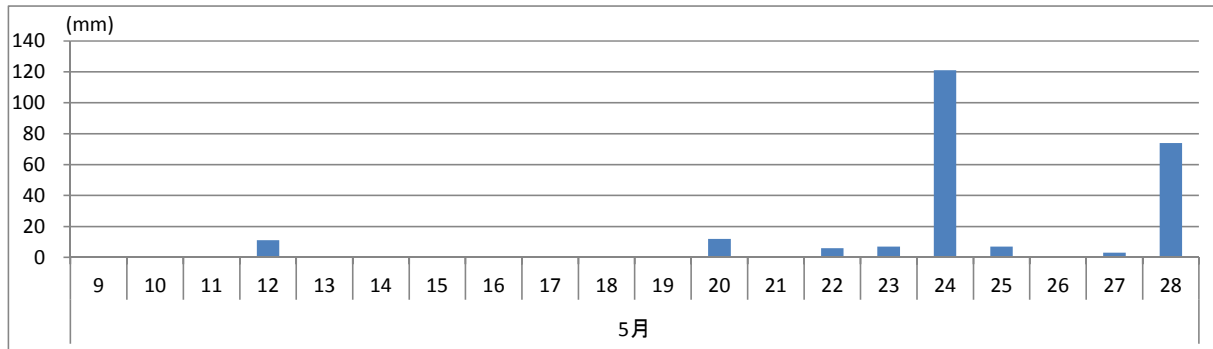


図 4.4-13 調査日前20日間の降雨状況(喜瀬武原)

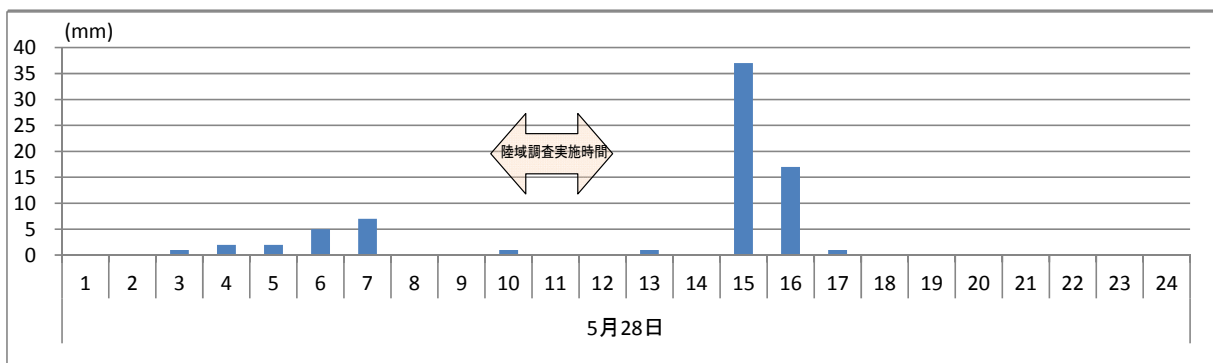


図 4.4-14 調査日当日の降雨状況(喜瀬武原)

(a) 流域内状況

陸域調査時の各種位置図を図 4.4-15 に示した。

また、次ページ以降、図内の地点位置の内容について、写真と共に詳細を述べた。

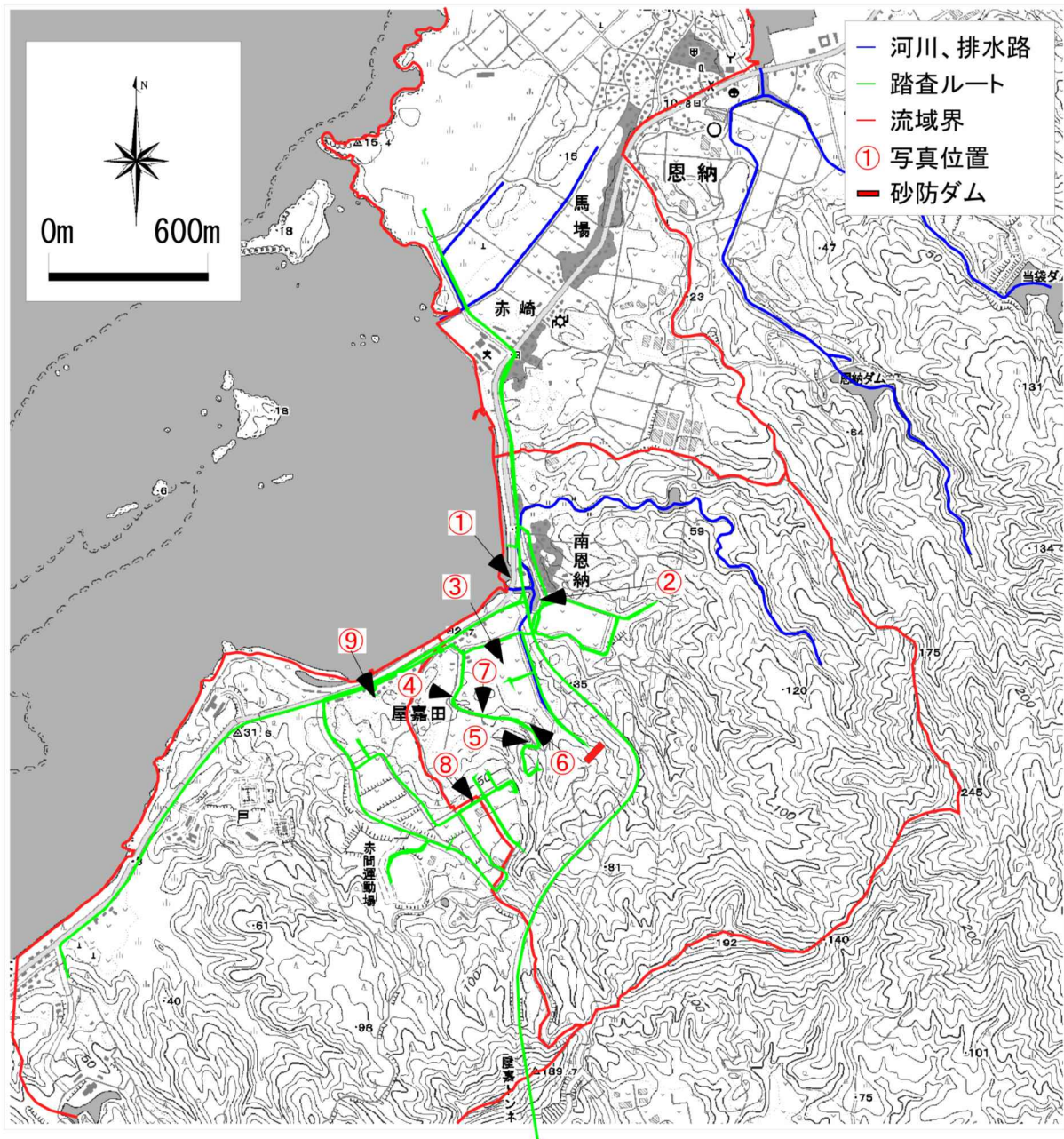


図 4.4-15 屋嘉田潟原 陸域調査位置図(1回目)

- ・ 河口部、河口部近くの湿地において、若干の濁りが確認された(地点)。ただし流域内において流出箇所は確認されておらず、河口部域の濁りは、河口の堆積泥によるものであると考えられる。



地点① 河口域(濁り小)



地点① 河口直上湿地(濁り無し)

- ・ H25 年度調査時より確認されていた橋梁上部工事は完了していた(地点)。工事完了に伴い沈砂池は埋められており、法面には緑化およびコンクリート張りが施されていた。



地点② 橋梁上部工事完了状況



地点② 昨年度状況

- ・ H25 年度第 2 回調査時に確認した農地区内水路造成では、昨年より裸地に草本が茂ってきており、本調査時には完全に草本に覆われ、裸地は見えなくなっていた。今後赤土流出の可能性は低いと考えられる(地点)。



地点③ 造成水路横の裸地(改善)



地点③ 昨年度状況(H26 年度 1 回目)

- ・ 本調査時に、地点 においてがけ崩れ箇所が確認された。側溝に崩れ落ちた赤土が堆積しており、赤土流出や側溝を埋めてしまうなどの懸念がある。



地点④ がけ崩れと側溝に堆積した赤土

- ・ 昨年度から確認されているがけ崩れがおきた箇所には、多少草本が茂っていたものの、大きな変化は見られなかった(地点)。



地点⑤ がけ崩れ後の状況(変化無し)



地点⑥ がけ崩れ後の状況(変化無し)

- ・ 地点 では、H26 年度調査時から確認されている 20m × 20m 程度の新規造成地は、ほぼ変化が無く、盛土から側溝へ赤土が流出する可能性がある。



地点⑦ H26 年度新規造成地(変化無し)



地点⑦ 昨年度の状況(H26 年度 2 回目)

- ・ 昨年度 1 回目調査時に、赤土流出があるとされた畑には、外周に草本が茂っており赤土流出の可能性は減少していた(地点)。流域内の畑の多くが同じような赤土流出対策がとられていた。



地点⑧ 外周に草本が茂るサトウキビ畑



地点⑧ 昨年度状況(H26 年度 1 回目)

- ・ 昨年度 2 回目調査時に確認された交差点改良工事は、本調査時にも継続して行われていた(地点)。巨大な工事用沈砂池が作られており、海沿いではあるが、赤土流出の可能性は低いと考えられる。



地点⑧ 工事状況(向かって右側に工事用沈砂池)



地点⑨ シートで囲われた工事用沈砂池

2) 第2回調査(平成28年1月21日実施)

(a) 降雨状況

調査日前20日間の降雨状況を図4.4-16に示した。また、調査当日の毎時雨量を図4.4-17に示した。調査日には58.0mmの雨が記録されたが、ピークは20時ごろであり、調査時間帯はそれより前の10時~12時ごろのため、平常時の陸域調査として実施した。

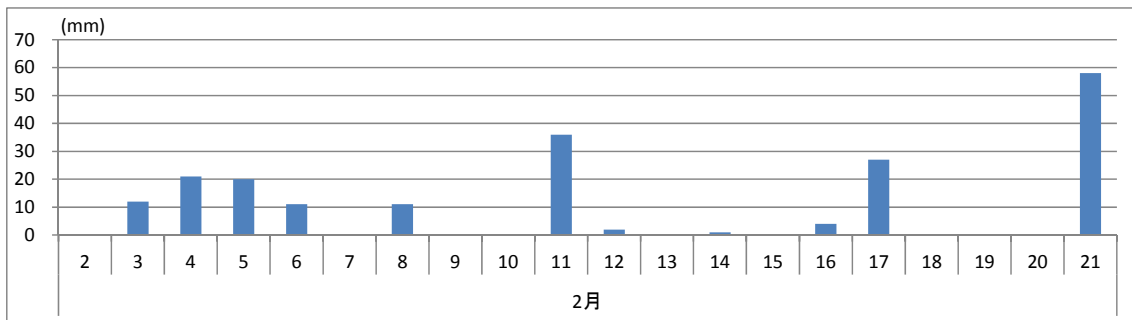


図 4.4-16 調査日前20日間の降雨状況(喜瀬武原)

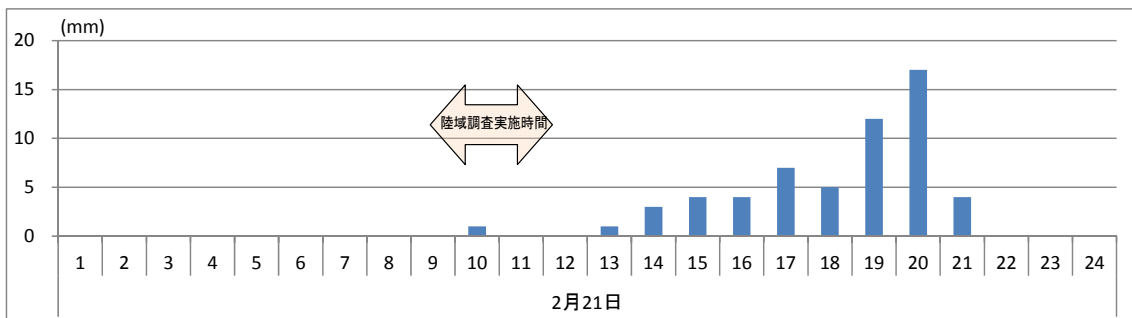


図 4.4-17 調査日当日の降雨状況(喜瀬武原)

(b) 流域内状況

陸域調査時の各種位置図を図 4.4-18 に示した。

また、次ページ以降、図内の地点位置の内容について、写真と共に詳細を述べた。

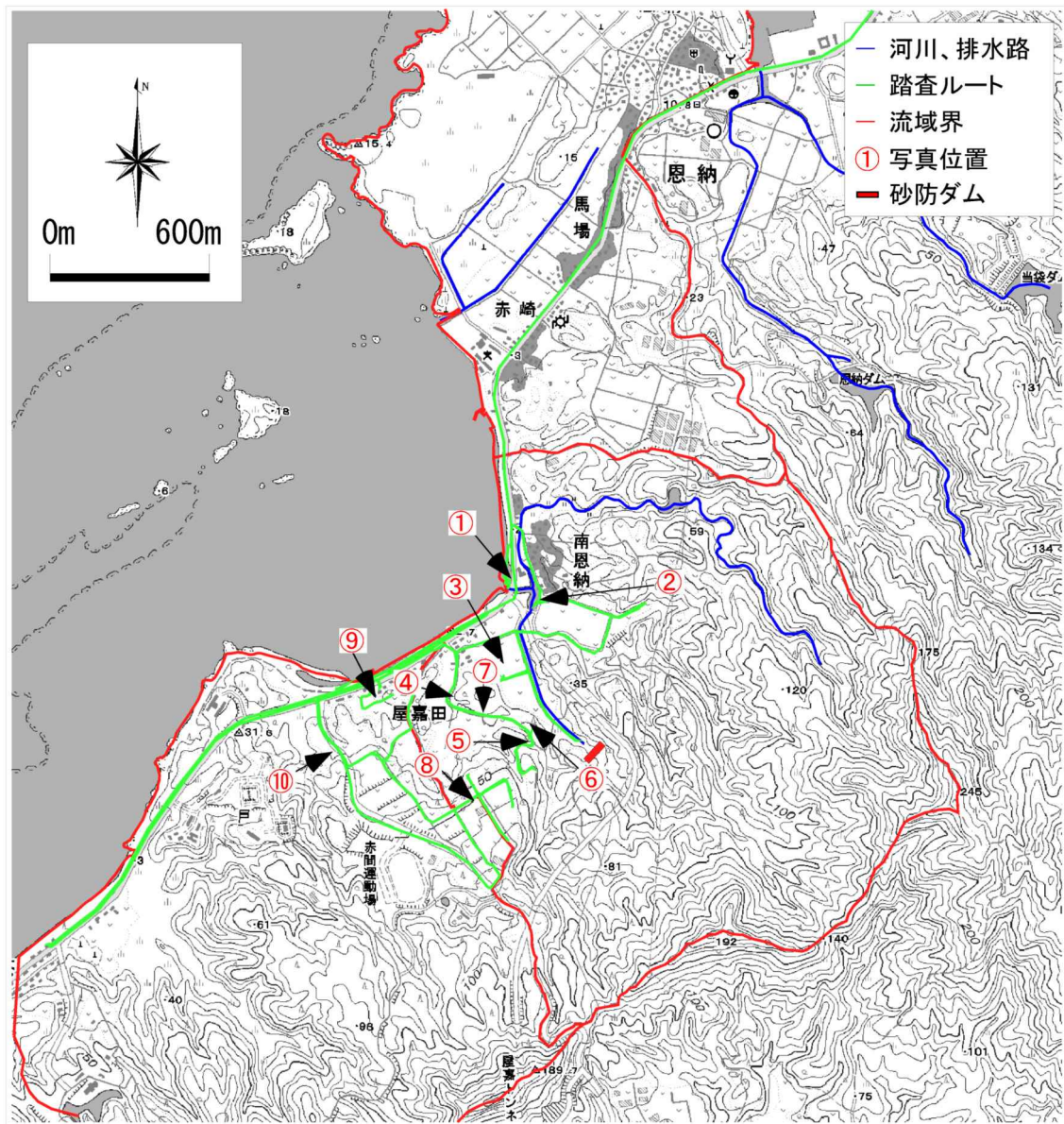


図 4.4-18 屋嘉田潟原 陸域調査位置図(2回目)

- ・ 河口部、河口部近くの湿地にいて濁りは確認されなかった(地点)。



地点① 河口域(濁り無し)



地点① 河口直上湿地(濁り無し)

- ・ H27 年度 1 回目調査時に法面工事が完了していた地点 では、法面緑化されていた斜面から若干土砂が流れ落ちていた(地点)。



地点② 法面から赤土が流出



地点② 前回状況

- ・ 前回調査時に確認された、がけ崩れのあった地点 においては、裸地自体には変化は無かったが、裸地の表面は硬化しており流出の可能性は減少していた。しかし側溝には、赤土が堆積していたため、今後とも確認が必要である。



地点④ がけ崩れと側溝に堆積した赤土



地点④ 前回状況

- ・ 昨年度から確認されているがけ崩れがおきた箇所には、草本が茂っており、裸地が大きく減少していた(地点)。



地点⑤ がけ崩れ後草本が覆う(改善)



地点⑤ 前回状況



地点⑥ がけ崩れ後草本が覆う(改善)



地点⑥ 前回状況

- ・ 地点 ⑦ では、H26 年度調査時から確認されている 20m × 20m 程度の新規造成地には、家屋が建っており赤土流出の可能性は減少していた。



地点⑦ H26 年度新規造成地(改善)



地点⑦ 前回状況

- ・ H26 年度 2 回目調査時に、赤土流出があるとされた畑には、マルチングが施されており赤土流出の可能性はほぼなくなっていた(地点)。流域内の畑の多くはマルチングやグリーンベルトのような赤土等流出対策がとられていた。



地点⑧ マルチングがされたサトウキビ畑(改善)



地点⑧ 前回状況

- ・ H26 年度 2 回目調査時に確認された交差点改良工事は、本調査時には完了しており、法面等広く緑化が行われており、また土嚢積み上げなどにより、赤土等流出の可能性は減少した(地点)。



地点⑨ 広く緑化工が行われる(改善)



地点⑨ 土嚢により赤土流出防止(改善)



地点⑨ 前回状況



地点⑨ 前回状況

- ・ 本調査時に下水道工事が確認された(地点 ⑩)。一部裸地が見られたが、道路などへの赤土流出は確認されなかった。



地点⑩ 下水道工事状況



地点⑩ 工事看板